

1年間の活動を終えて

社会福祉学部社会福祉学科 2年 塩澤 暁代
活動先：NPO 法人 ふれあいネットワーク美浜
クラス：原田 正樹 先生

1. SLを通しての自分の成長と気づき

私がゼミ選択の際にサービ斯拉ーニングを希望した理由は、他に興味が湧くゼミが見つけれなかったことと、どうせやるならフィールドワークがしっかりできるゼミが良いと思ったからであった。NPO についての知識や関わった経験などほとんどなかったし、不純な動機で選択したサービ斯拉ーニングであったため、とても不安なスタートとなった。しかし、バスツアーに参加して知多地域にあるいくつかの NPO を見学したり、クラスのメンバーと NPO のイメージを共有したりしていくうちに、次第に NPO に対する興味・関心が高まっていった。

あっという間に夏休みに入り、6 日間のサービ斯拉ーニング活動が始まった。私は、ふれあいネットワーク美浜で活動させてもらい、小さな NPO の良さを学んだ。スタッフも利用者も少人数であるからこそ、互いの信頼度が高く、利用者のニーズが把握しやすくなると感じた。また、病院や買い物の際の送迎を行っているふれあいネットワーク美浜は、本当に地元住民のためにある NPO といった感じで、地域と NPO の関係やつながりの深さも学ぶことができた。

夏の活動を終え、私は NPO の経営や運営面について学びたいと思うようになっていた。このように思ったのは、同じクラス内の活動先に、NPO 法人格を取得していない小さな団体もあれば、財政規模が1億円を超えるような大きな団体があったことも大きなきっかけとなった。サービ斯拉ーニング活動が始めるまでは、NPO と言えば営利を目的としない団体であり、どこの団体も同じような規模で活動しているだろうと思っていた。しかし、それは大きな誤解であったことがわかった。一言に NPO と言っても、活動規模や財政規模は様々であること、規模の大きい小さいに関わらずそれぞれに良さがあるということも学んだ。

このように、NPO に対する興味・関心や学習意欲は日が経つにつれて増していった。そして、今まで気に留めることも無かったような「NPO」という文字に気づく機会が増えた。何気なく街を歩いていて NPO の看板などを目にする、どんな活動をしている団体なのか気になり調べるようになった。これが、私自身がサービ斯拉ーニングを通して変化した点、成長した点である。

私は、これまでに得た NPO に関する学びをさらに深め、今後も NPO に関する学習を続けていきたいと考えている。また、せっかく多くの NPO が存在する知多地域で学生生活を送っているのだから、色々な NPO と関わりをもっていけたら良いと思う。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や市民活動

ふれあいネットワーク美浜での活動を通して見えた地域課題は、後継となる若者がいないことである。活動先に若いスタッフがおらず、後継者がいないことも課題であるが、そ

れに限ったことではなく、美浜町地域全体の課題でもあると考えられる。そう考える理由は、活動中に利用者の方が「若い人は皆、名古屋へ出て行ってしまう。」と話されていたからである。

確かに、若者世代の多くが就職や結婚などで美浜町外へ出て行ってしまうという問題があるだろう。しかし、美浜町には日本福祉大学が存在し、多くの学生が生活している。私は、この学生たちが、今後の美浜町の地域活動、市民活動を支えていくべきだと考える。4年間という短い美浜町での生活でも、地域、福祉を学ぶ学生が地域のエネルギー源となれることも何かあるはずである。

そのためにも、サービスマーケティングは大きな鍵となる活動であると考えている。

3. 来年度 SL を履修する学生たちへ

はじめに述べたように、私は純粋にサービスマーケティング活動がしたいと思ってゼミ選択をしたわけではなかった。しかし、一年間を振り返ると、この活動ができて本当に良かったと思える。企画や準備をすべて自分たちで行い、何度も考え直し、つらく感じることもあったが、それも全部良い経験、思い出となっている。

来年度以降サービスマーケティングを履修する学生たちにも、是非積極的に活動に取り組んでほしいと思う。そして、NPO や地域に関する学習をすすめるとともに、自分自身を成長させてほしい。